

内閣総理大臣
表彰

静岡県推薦

株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社 メディア・ユニバーサル デザインプロジェクトチーム

(静岡県静岡市)

【概要】

➤ 静岡県におけるマスメディアの中核を担っている企業である。社員がカラーユニバーサルデザインの研修に参加し、従来から行っていた情報発信が、色覚障害者の特性等を理解しておらず、一部の人には伝わりにくいものになっている可能性が高いことに気づき、メディア展開におけるユニバーサルデザインを進めることとした。

➤ ユニバーサルデザインの導入に当たっては、NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン(MUD)協会の監修等を受けながら、色覚障害者だけでなく、国内初の取組として、白内障等で見えにくさを感じている高齢者も視野に入れた配慮を行った。また、新聞、放



送共同でプロジェクトチームを発足させ、グループ全体で使用するMUDガイドブックを作成したほか、社内にMUD教育検定の資格取得者を配置し、常時メディアとしての適正な表現についてチェックが行えるようにしている。グループ会社を含めたガイドブック活用の研修も実施している。また、新聞紙面に新聞UDフォントを導入し、高齢者にも読みやすい新聞紙面の取組も進めている。

➤ 平成28年3月、静岡県立静岡文化芸術大学デザイン学科の小浜朋子准教授(工学博士)とメディア・ユニバーサル・デザイン協会による「後期高齢者参加型高齢社会のQOL向上に向けた調査」を実施し、新聞UDフォントを導入した静岡新聞のテレビラジオ欄は、調査対象主要5紙と比較し一番読みやすいという評価を得た。また、静岡新聞はより明るい光源下、より暗い光源下の両条件においても他紙よりも読みやすいという結果が確認された。

【特に顕著な功績・功労】

- 色覚障害者は男性の20名に1人の割合で存在、白内障等で色の識別が困難になっている高齢者は色覚障害者の10倍は存在するとも言われている中、高齢者と色覚障害者が共通して理解できる配色は一般的にはまだ知られておらず、従来発信している方法では、色覚障害者や高齢者に情報が伝わらないという問題意識から、全ての人に優しい情報発信を可能にするため、メディア側による色覚障害者や高齢者等の色認識の特性を理解することが必要と考え、静岡新聞社・静岡放送の主要組織からスタッフを集めて



MUDガイドブック「制作視点」

「メディア・ユニバーサルデザイン（MUD）プロジェクトチーム」を編成し、「MUDガイドブック「制作視点」～色覚タイプの異なる人と高齢者に優しいメディアを目指して～」をNPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会の監修（NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会から得た色相環をベースにした色覚障害者と高齢者が共通して理解できる独自のノウハウをガイドブックに導入）により制作した。

- 使用可能な色と不可である色等のカラーユニバーサルデザインに関する項目をリストアップし、新聞読者やテレビ視聴者に理解しやすい配色を行うなどのカラーユニバーサルデザイン対応を実施した。



テレビ カラー調整室風景



実践例（上が改善前、下が改善後）

- 色以外で工夫（凡例を使用しない）（テレビ）

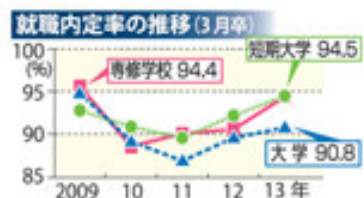
➤ 新聞紙面に「新聞UDフォント」を導入し、多くの人がより見やすい紙面作成を行った。(静岡新聞、伊豆新聞及びハワイ報知(アメリカ合衆国ハワイ州)(※伊豆新聞・ハワイ報知は、静岡新聞グループ会社))

➤ 新聞・放送で問題があった可能性のある記事やフリップ等を過去10年間に遡りリストアップし、その改善例を具体的に記載することでメディア・ユニバーサルデザインに配慮する側にも理解しやすく、実践に移しやすいガイドブックになるよう制作面でも工夫した。

➤ ユニバーサルデザイン導入後、新聞・放送両現場において、色弱者、高齢者への表現に対する意識が変わり、「全ての人にわかる」「誰にもわかる」ということはメディアの役割という理解が進むとともに、それに基づいた具体的取組が実施されており、徐々に他メディアにも広がりつつある。それ程遠くない将来、全てのメディアでユニバーサルデザイン化が進むことが期待される。



改善例



線や形で工夫(新聞)